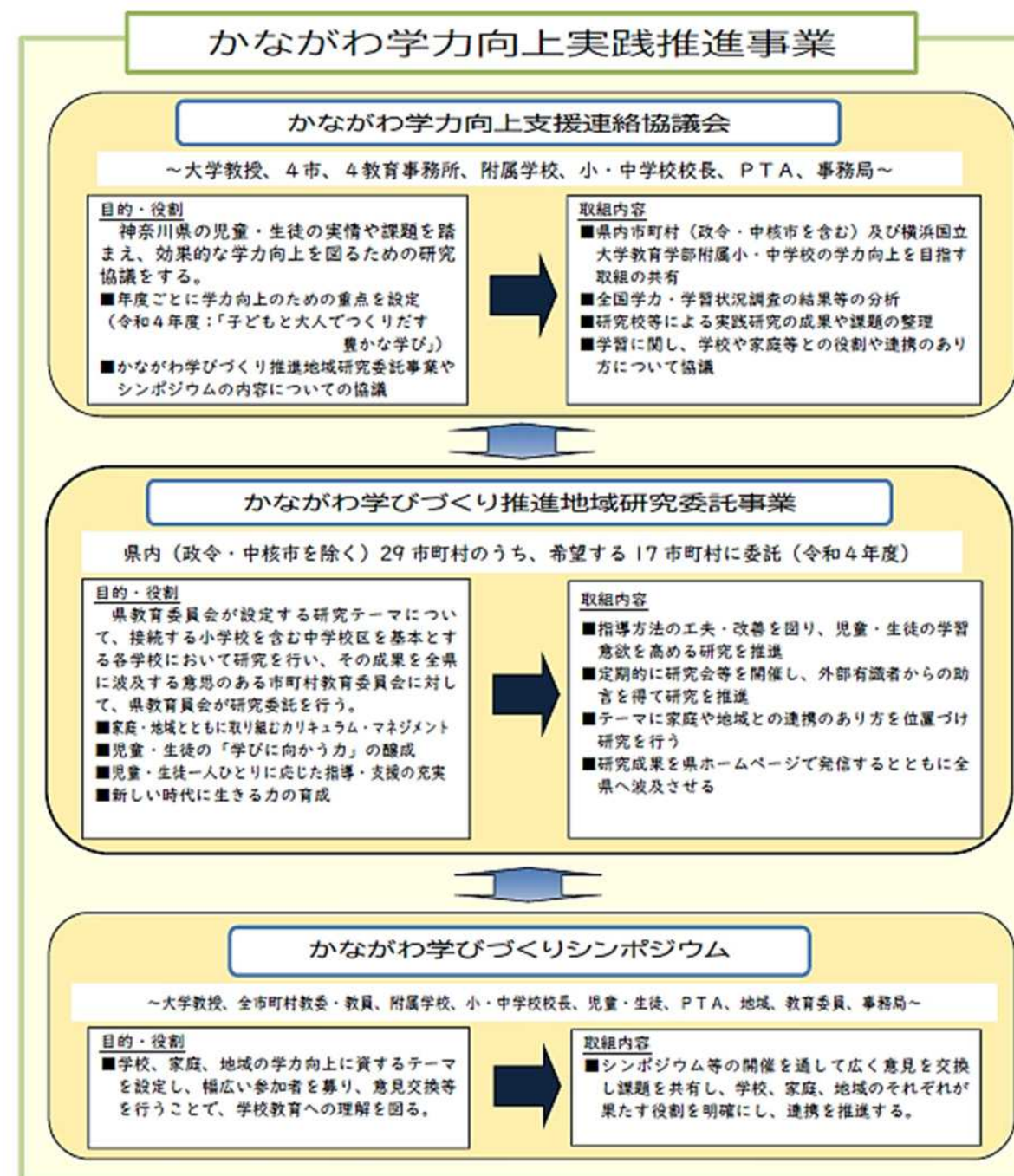


研究委託地域	研究テーマ
鎌倉市	主体的・対話的で深い学びのある授業づくり ～深く考え、判断し、自ら進んで学習する児童・生徒の育成を目指して～
藤沢市	「主体的な学び合いのために」 ～意見を持つ、伝える、認め合う授業づくりを目指して～
茅ヶ崎市	未来を拓く力をはぐくむ学校教育の充実 ～学びの質を高める学校教育の充実～
三浦市	郷土三浦に誇りを持ち、これからの社会をたくましく生き抜く人材の育成
葉山町	「9年間を見通した育てたい葉山の子ども像」をもとにした「小中一貫教育の実現に向けて」
寒川町	確かな学力を身につける教育の推進 ～豊かな心と確かな力 瞳輝く寒川の子～
綾瀬市	9年間を見通した豊かな学びを目指して ～授業スタイル（振り返り）と家庭学習の充実の共通化を通して～
愛川町	自立・協働 ～たくましく生きぬく力を持つ子～
清川村	幼・小・中の12年間を見通した確かな学力と豊かな心の育成 ～輝き・愛着・誇りを持って未来を支える「清川っ子」の育成を目指して～
秦野市	児童・生徒の「学びに向かう力」の醸成
大磯町	児童・生徒一人ひとりに応じた指導・支援の充実
二宮町	児童・生徒の「学びに向かう力」の醸成 児童・生徒が楽しみながら学び続ける
南足柄市	夢と希望を持って、粘り強く自分の道を切り開く子どもの育成 ～「確かな学力」の向上をめざした指導の工夫・改善～
大井町	「質の高い授業の創造」～一人ひとりの主体性と道徳性の育成をめざして 児童・生徒の「学びに向かう力」を育む授業づくり～
松田町	「質の高い学びの創造」～自立・創造・共生の視点から～
山北町	社会の中で他者とよりよく関わりながら自分らしく生きることが出来る人間力と社会力の育成
真鶴町	伝え合い・学び合いを通して育む確かな学びと豊かな心

かながわの 学びづくり プラン

神奈川県教育委員会では、「かながわ学力向上実践推進事業」を平成20年度から実施しています。この事業は、平成19年4月に始まった全国学力・学習状況調査の調査結果等の分析をとおり、今後の指導の改善につなげることを目的とした有識者を中心とする「神奈川県検証改善委員会」の報告をもとに始まりました。本事業では、下図のように、3つの取組(かながわ学力向上支援連絡協議会、かながわ学びづくり推進地域研究委託事業、かながわ学びづくりシンポジウム)を連動させて実践研究を進め、その成果を全県へ周知しています。



各地域・推進校の研究の概要を、令和4年度かながわ学力向上シンポジウム(オンライン)で紹介しました。神奈川県ホームページにも掲載しています。[かながわ 学びづくり推進地域](#)で検索。

令和5年度は、17市町村(鎌倉市、藤沢市、茅ヶ崎市、三浦市、葉山町、寒川町、綾瀬市、愛川町、清川村、秦野市、大磯町、二宮町、南足柄市、大井町、松田町、山北町、真鶴町)を、かながわ学びづくり推進地域研究委託事業の研究委託推進地域としています。

また、令和5年度かながわ学びづくりシンポジウムは、令和6年1月中旬に開催する予定です。



問合せ先:神奈川県教育委員会 子ども教育支援課 教育指導グループ
電話:045-210-8217(直通)

※ 本紙は、令和5年度の各学校・家庭・地域での「かながわの学び」の充実につなげていただくよう、令和4年度の「かながわ学力向上実践推進事業」を紹介するものです。各ホームページも併せて御覧ください。

令和4年度 かながわ学びづくりシンポジウム 令和5年1月22日(日)オンライン開催



(案内チラシ)

県教育委員会では、学校教育、家庭教育、地域の教育力の向上に資するため、それぞれの役割や協働した環境づくり等について広く意見交換をするシンポジウムを毎年開催しています。

令和2年度より、小・中学生から大人まで参加できるよう、休日にオンラインで開催し、多くの視点からかながわの学びについて語り合ってきました。今年度、「子どもと大人で学びをつくりだしていく」というねがいのもと、新たに「かながわ学びづくりシンポジウム」と名称を変更し、それぞれの立場で、「豊かな学び」や「かながわの学びづくり」について語り合いました。

神奈川県ホームページも御覧ください。

かながわ 学力向上 で検索。

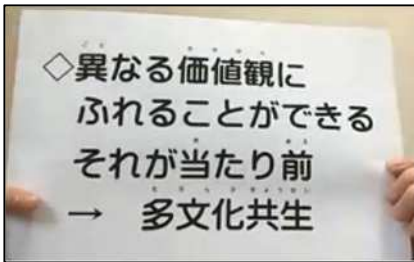


「令和4年度かながわ学びづくりシンポジウム」の概要(子ども教育支援課まとめ)

前半「豊かな学びの姿とは…」

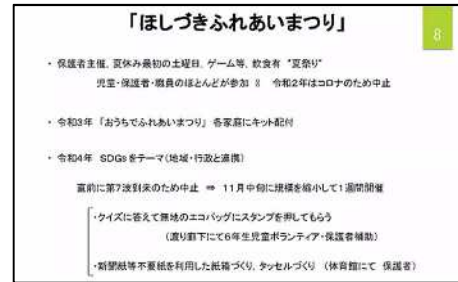
報告① 神奈川県公立小学校長会副会長 坂井 泰雄 先生

保護者と協力して開催した「ほしづきふれあいまつり」では、コロナ禍においても学校を盛り立てたいという保護者の意識と意欲を感じ、児童は楽しみながら学んでいた。児童の「つぶやき」をもとにした授業づくりや、「見通し」と「ふりかえり」を積み重ねることで、学びを豊かにすることができると考えている。



報告② 神奈川県公立中学校長会副会長 宮坂 賀則 先生

社会で生きる力を育むために、日々の教科の学びを大切に、生徒に合わせて授業や学校、教員が変化していくことを学校全体で意識している。今年度開校した夜間学級では、様々な理由で中学校で学べなかった人が、安心して、分かる授業のもと、自信をもって、異なる価値観にふれながら、熱心に学んでいる。



報告③ 横浜国立大学教育学部附属鎌倉中学校 戸沼 雄介 先生

自分の興味からどのように学びが進むか、学んだことが社会や自分自身にどのように生きていくかなど、子どもに学びの実感を持たせるために、子どもの意見や考えをきちんと受け止められる場に学校はなっているのか。このようなことを考えることが豊かな学びに繋がるキーワードとなると考えている。



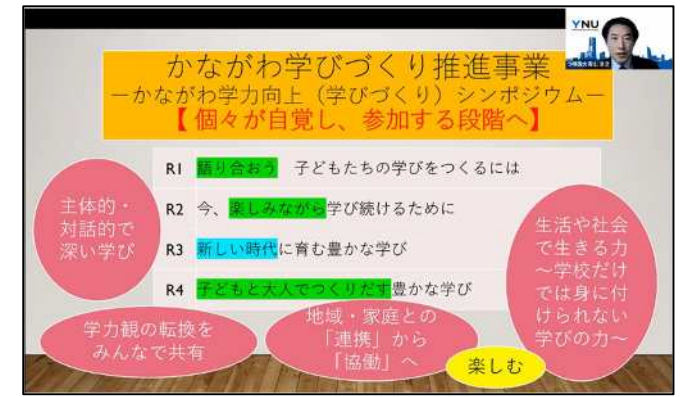
報告④ 神奈川県PTA協議会会長 大木 健一 さん

自己肯定感をもった子という、自信のある子や主体性のある子という意味合いで話されることが多いが、自信があまりない子は物事を慎重に進めることができたり、主体性のあまりない子は協調性に優れていたりする。自己肯定感という言葉を再定義するならば、自分らしさが認められていくことであり、そういった社会になったらよいと思う。

基調講演①「かながわの学び」についてー「発信・共有」の段階から「個々の自覚」の段階へー

横浜国立大学教育学部教授 青山 浩之 先生

シンポジウムでは、学校だけではなく、家庭や地域と一体になってかながわの学びについて意見交換を行ってきた。生活や社会で生きる力は学校だけでは身に付けられない学びの力であり、家庭・地域との「連携」の段階から、大人も参加して学びをつくりだす、その中で子どもも大人も学ぶ楽しさを実感して一緒に活動していく「協働」の段階へ入ってきており、それが一人ひとりに自覚され、今後、かながわの学びづくりが推進されるべきと考えている。

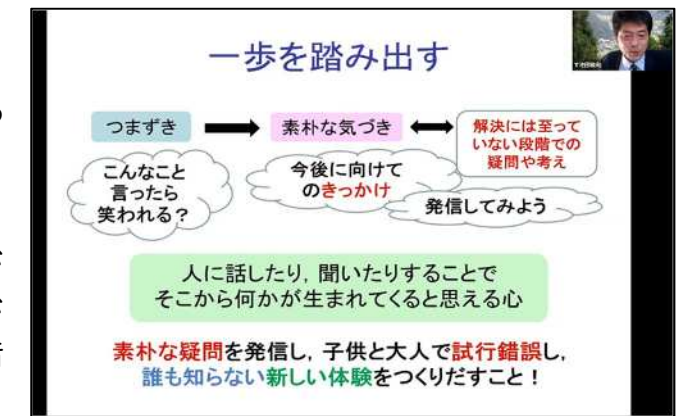


後半「子どもと大人でつくりだす 豊かな学びとは…」

基調講演②「子どもと大人でつくりだす 豊かな学び」

横浜国立大学教育学部教授 池田 敏和 先生

学びの中でのつまずきや、こんなことを言ったら笑われるかも？ということも、見方を変えると今後に向けての大きなきっかけになっている。人に話したり、聞いたことでそこから何か生まれてくると思える心が大切であり、子どもだけではなく大人もこのような心をもつ必要がある。素朴な疑問を子どもと大人で試行錯誤し、誰も知らない新しい体験をつくりだすことができれば、子どもと大人で豊かな学びがつくりだせるのではないかと考えている。



協議の全体共有、シンポジウム感想より

豊かな学びとは、繋がりやコミュニケーションが大切だと思う。オンラインだと分かりづらかったり、顔が見えなかったりするので、実際に話すことが必要だと思う。(中学生)

部活動の活動の時間が減っていることに不安を感じている。部活動を安心して続けていける環境にしてほしい。活動を保護者が手伝ったり、生徒の意見を言える場面を作ったりするなど、子どもも大人も参加できる場所にしてほしい。勉強も大切だが、部活動も120%頑張ったと言える中学校生活にしたい。(中学生)

授業で座っているだけではなく、外に出て調べたり、友達と一緒にグループでまとめたり、相談しながら工夫してポスターにするのが楽しい。(小学生)

ICT活用を進める中でも、学校・家庭・地域が連携し、直接人と人とが触れ合う教育を進めていくことが、学びを深めたいと思う気持ちに繋がると感じました。(教員)

色々な方の色々な意見が聞ける貴重な時間でした。自分自身を成長させる学びを止めないように、また、そのような大人の姿を見て子どもたちが育って行ける地域であってほしいと思いました。(保護者)

子どもの思い・考えを「きく」ことが出発点だと改めて考えました。そして、大人も一緒になって「対話」していくことで、子どもたちが学校・家庭・地域の中で豊かに学び続けているようになるのだと思います。(教育委員会職員)